

07 甲斐市文化財保存活用地域計画【山梨県】

【計画期間】令和5～12年度（8年間）

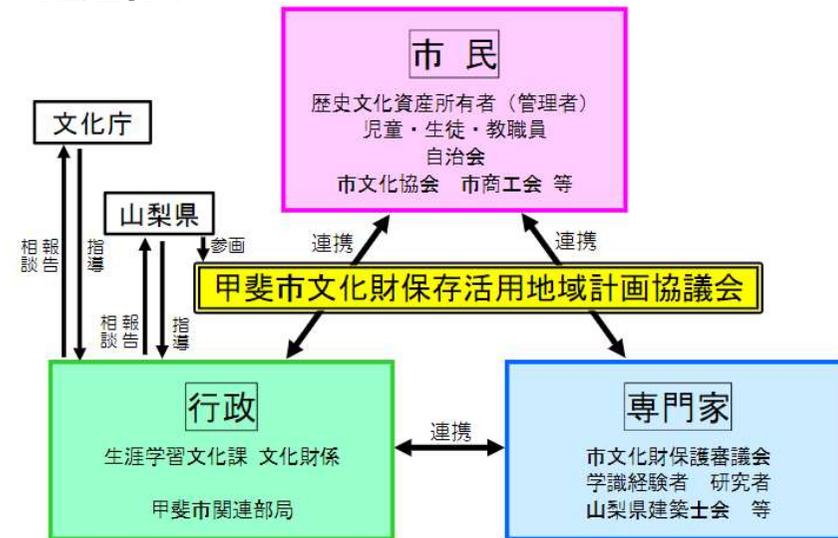
【面積】約72km²

【人口】約7.6万人

【関連計画等】日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～」（R2年度）



推進体制



歴史文化の特徴

山岳地で育まれた歴史文化 ～山仕事と祈りの道～

黒富士火山などによってつくられた山岳地は、荒川や亀沢川によって深い谷がつけられている。この地域は、かつては炭焼きや林業が盛んな地域であった。また、金峰山信仰に伴う御嶽道が幾筋も集落内を通過しており、多くの人々が山中を行き交っていた。

丘陵地で育まれた歴史文化 ～水が少ない土地で暮らす～

茅ヶ岳の南麓地域は緩斜面の丘陵地で、縄文時代の集落跡や古代官営牧場の推定地、窯業、信州へ続く穂坂路・逸見路が通るなど、古くから人々の活動が見られる。その反面、火山灰質の土壌に立地しているため、水を得るには大変苦労した地域である。

平地で育まれた歴史文化 ～水辺で暮らすということ～

遺跡が数多く存在する平地（荒川扇状地）。中世に鋳物師が活躍した平地（塩川氾濫原）。中世以前の遺跡が全く見つかっていない平地（釜無川扇状地）。これら3つの平地は、水辺で暮らしているからこそ得られる恵みと被る害。それらを全て飲み込んだ上で人々が暮らしている地域である。

指定等文化財件数一覧

類型		国指定	県指定	市指定	国登録	合計	
有形文化財	建造物	1	6	9	4	20	
	美術工芸品	絵画	0	0	3	0	3
		彫刻	0	3	9	0	12
		工芸品	1	0	2	0	3
		書籍・典籍	0	4	0	0	4
		古文書	0	0	2	0	2
		考古資料	0	3	2	0	5
		歴史資料	0	1	7	0	8
無形文化財	0	0	0	0	0		
民俗文化財	有形民俗文化財	0	2	5	0	7	
	無形民俗文化財	0	0	5	0	5	
記念物	遺跡（史跡）	0	2	16	0	18	
	名勝地（名勝）	1	0	3	0	4	
	動物、植物、地質鉱物（天然記念物）	0	3	13	0	16	
文化的景観	0	-	-	-	0		
伝統的建造物群	0	-	-	-	0		
文化財の保存技術	0	-	-	-	0		
合計		3	24	76	4	107	

指定等文化財は、107件

未指定文化財は、2,124件把握

「心づくり」とは、ふるさとの歴史文化について学ぶことで、地域への誇りと愛着を持ち、将来、地域に参画・貢献していこうとする心持のことをさす。「人づくり」とは、歴史文化を次代に伝えるための人材育成はもちろんのこと、それらを次代に伝えることに共感し、共に活動をしていく“仲間”をつくることを示す。

課題

「調べて残す」に関する課題

①調査研究に関する課題

- ・調査対象となっていた歴史文化資産が特定の分野に偏っている
- ・統一された調査基準による調査が行われていない
- ・関連部局と連携した歴史文化資産の調査が行われていない

②保存・維持管理・伝承に関する課題

- ・指定等文化財の所在及び状態確認を定期的にも実施できていない
- ・歴史文化資産データベースが未構築
- ・社会情勢の変化により、歴史文化資産が散逸や滅失の危機に瀕している
- ・人口減や高齢化などにより、歴史文化資産の後継者が不足している
- ・旧町史誌の歴史文化に関する情報が現在とは大きく乖離している

「伝えて共有し、育てる」に関する課題

①情報発信に関する課題

- ・市ウェブサイト等で公開している情報が指定等文化財に偏っている
- ・指定等文化財を通覧できる冊子などが未作成である

②活用に関する課題

- ・文化財係単独の活用事業が主で、他部局との連携が不足している
- ・歴史講座や教育普及活動の対象が限定的又は恒常化し、歴史文化資産に興味を持つ人々の裾野が広がりにくい

③人材育成に関する課題

- ・地域の歴史文化資産を市民と共に調査する体制が未確立である
- ・児童生徒など、将来歴史文化資産を次代に伝えてほしい世代に対しての人材確保と育成方法が未確立である

「未来につなげる」に関する課題

①体制整備に関する課題

- ・文化財担当課の専門職員が少なく、歴史文化資産の保存・活用に対して対応が遅れる
- ・計画的に専門職員の採用ができていない
- ・市民、歴史文化資産所有者、専門家、行政の連携が不足し、どのような体制を整備すれば歴史文化資産の保護に繋がるのかわからない
- ・市内の歴史文化資産への理解が十分ではない

②防災・防犯に関する課題

- ・歴史文化資産が立地する場所の災害リスクが把握できていない
- ・災害発生時の対応がマニュアル化されていないため、初動対応が遅れが生じる
- ・市指定文化財等では定期的な巡視が行われていない

③拠点施設に関する課題

- ・歴史文化資産の調査研究、保存管理、教育普及、活用が一か所で行える拠点施設がない

方針

方針1：調べて残す（調査研究・保存・維持管理・伝承）

- 1-1 歴史文化を未来に残すための計画的・継続的な調査研究
- 1-2 保存・維持管理・伝承の仕組みや支援方法を整える

【措置の例】

- 3 地域資料収集の関連部局との連携
- 8 散逸等の危機に瀕している歴史文化資産の保護体制の構築 等

方針2：伝えて共有し、育てる（情報発信・活用・人材育成）

- 2-1 様々な手法で甲斐市の歴史文化を情報発信する
- 2-2 関連部局と連携した歴史文化資産の活用
- 2-3 歴史文化を次世代につなぐ人づくりの方法を整える

【措置の例】

- 17 ジュニアリーダー、シニアリーダーとの連携
- 18 歴史文化資産の調査を行える人材の発掘・育成 等

方針3：未来につなげる（体制整備、防災・防犯への備え、拠点施設の整備）

- 3-1 歴史文化資産保護の体制整備
- 3-2 防災・防犯への備え
- 3-3 歴史文化資産拠点施設の整備の検討

【措置の例】

- 25 歴史文化資産ハザードマップの作成
- 29 歴史文化資産拠点施設の整備 等

※措置の例については、次頁で詳述する

措置の例

方針1 調べてのこす（調査研究・保存・維持管理・伝承）

方針1-1 歴史文化を未来に残すための計画的・継続的な調査研究

3 地域資料収集の関連部局との連携

散逸すると収集が困難となる郷土に関する資料収集を、図書館や公民館などと連携して取り組み、収集資料はデータベース化を行う。



- 取組主体：行政（文化財担当部局）、行政（関連部局）、市民
- 計画期間：R 5～12

方針1-2 保存・維持管理・伝承の仕組みや支援方法を整える

8 散逸等の危機に瀕している歴史文化資産の保護体制の構築

社会情勢の変化によって散逸等の危機に瀕している歴史文化資産をどのように次世代に伝えるか、その保護体制を検討し、構築する。



- 取組主体：行政（文化財担当部局）、行政（関連部局）、専門家
- 計画期間：R 10～12

方針2 伝えて共有し、育てる（情報発信・活用・人材育成）

方針2-2 関連部局と連携した歴史文化の活用

17 ジュニアリーダー、シニアリーダーとの連携

ジュニアリーダー及びシニアリーダー※が歴史文化に触れる体験会や研修を行い連携を深める。



- 取組主体：行政（文化財担当部局）、行政（関連部局）
- 計画期間：R 5～9

方針2-3 調査研究や活用を共に進める人材の育成方法を整える

18 歴史文化資産の調査を行える人材の発掘・育成

歴史文化講座やワークショップなどを利用し、歴史文化資産の調査に深い関心のある人材を発掘し、専門知識を有する人材を育成する。



- 取組主体：行政（文化財担当部局）、専門家
- 計画期間：R 5～12

※ジュニアリーダー及びシニアリーダー…青少年育成甲斐市民会議（事務局：生涯学習文化課）が地域や学校でリーダーシップを発揮できる小4～高校生を育成することを目的に活動する組織

方針3 未来につなげる（体制整備、防災・防犯への備え、拠点施設の整備）

方針3-2 防災・防犯への備え

25 歴史文化資産ハザードマップの作成

市ハザードマップと歴史文化資産の位置図を重ね、歴史文化資産ハザードマップを作成し、自治会や消防署と共有する。



- 取組主体：行政（文化財担当部局）
- 計画期間：R 5～7

方針3-3 歴史文化資産拠点施設の整備の検討

29 歴史文化資産拠点施設の整備

調査研究・保存管理・教育普及の全てが一元的に行える拠点施設の整備を検討する。



- 取組主体：行政（文化財担当部局）、行政（関連部局）
- 計画期間：R 5～12